



二月号

今月の十人+1

全美

彩結ゆあ

森屋たもん

鈴木智花

雨

ただのたなか

きんかく

武井窓花

深山睦美

鳥さんの瞼

発行人 吉田岬

二〇二五年二月十日

発行

吉田岬



大学へは鈍行で行く山陽本線がゆっくり走る朝

広島は瀬戸内海に並行で思つてたよりずっと縁どり

学生の時間は残りわずかだよ三時間半の通学を選ぶ
考えることがなくなり妄想が高らかになるあと二時間半

「女子大生電車で読書」字面だけ見ればなんだかいい感じ

本当は一行だつて読めちゃいない窓の外には無人駅

無人駅扉開いても人は来ずだつて無人駅だもの暇すぎる

年間の下宿代と引き換えに電車通いで浮いた金で食うパン

晴れた日の海がまぶしい負けたくなくて窓際でじつとり汗ばむ

あの海も山も川も草原もどこにも行けない遙かな校舎

全美 広島発青春列車

幼稚園のころから襟足を剃つているそのバリカンでモヒカンになる
弟はバイト代で金髪になりそのあと理解を示そうとした

保健室の石鹼借りてモヒカンになすりつけたらジエルよりも立つ

モヒカンを立たせたあとは丸首のシャツやセーターや着られない

担任が一旦マジな顔になりそのあと理解を示そうとした

千円でギターが買えるか弟とふざけていたらマジで売つてた

「ドラムならできそうだ」つて弟の楽観主義が弟だつた

祝福のように停学になつてチューニングをDまで下げといた

鉄板にパチンコ球の雨を降らすイメージで五十二曲ができた

初期衝動とかそんなんどうでもいい来週ライブができるか聞いた

森屋たもん 一九九八年四月杉並

鈴木智花

なにを見てなにを想つて鳴いてゐるくちばしの先染めて海猫

中空を鳴きたいやうに鳴きながら海岸線を鳴がなぞる

夜光虫ひどく騒いで青白く触れる指にも滴るひかり

こぼしてもこぼしても枯れぬみづを抱くこころの底にしづかな斎庭

捧ぐるにあらず奪ふにもあらず与へあひたし海に降る雨

小さき波来てまた大き波の来て砕けて白く泡立つ 不思議

海中を沈みてふとも舞ひ上がる溶けずに積もるといふマリンスノウ

あたらしい花びらひらく縋りつく記憶報われなくともしあわせ
繫ぐことも並ぶこともないエンディング何回観ても飽きはこなくて

かろやかに羽を広げる飛んでゆく桜吹雪はひとりじめする

大丈夫まだ生きている強さとは負けないことではないのだから

多くの永遠を抱えて

彩結ゆあ

レプリカに会いたいそういうことにして救済される幻の日々

運なんかで生きていよいよゆるやかな計算の答え 頭が痛い

てのひらの生命線は五センチ差 あいをするつて簡単じやない

廊下からあの窓辺からグラウンド見ていた好きな汗が光った

次も右正しい道を迷うふりきみの夕日が朝になるまで

レトロコインランドリー思い出すたびに続く坂道角度が違う

なにも並ぶこともないエンディング何回観ても飽きはこなくて

あたらしい花びらひらく縋りつく記憶報われなくともしあわせ

かろやかに羽を広げる飛んでゆく桜吹雪はひとりじめする

大丈夫まだ生きている強さとは負けないことではないのだから

Sea(自己換骨連作)

魚(うを)二四 思ひ思ひに身の内を泳ぎてゐたり 詩情と慕情

なにごともなかつたやうに畠ぐ朝(あした)その名を知らぬ海鳥の鳴く



山鳥がほーほーと鳴く畦道を赤いランドセル揺らして走る

お隣りの川田さんちの鶏を荷台に乗せて漕いだ自転車

高い空 ルールは親で親がルールでなりたかったのはこけし

友達の2階の部屋からはしてての見えた痴漢にあつた

雨 ギシギシと2段ベッドは軋むからきをつけないとそつとそつと

中2まで生理がくる夢見続けた 女は象形文字であつて

赤色の信号をただ待つときの横断歩道の向こうの大人

今日こそは父に内緒で出れる家、土壇場でまたやめるよ母は

カタカタとランドセル鳴く畦道でキラキラなにか光っていたんだ

最初から小さい海馬だったのよだからあること忘れていたのよ



きんかく

都合よく人の形にされているかつて神童だった塊
父さんの皮を被った歯車の油まみれの滑らかな所作

最後には上手くいくつて言われてもビジネスマナーの笑顔が邪魔だ
そびえ立つ四方の壁を諦めてここに実家というピンを刺す

檻に触れ、子供の向こう側にいる孫の虚像を抱きしめる母

頑張ってきませんでした。と言うための履歴書変に長つたらしい

職歴になつてはじめて自叙伝を（時間をかけて割愛と）書く

新着の求人ばかりあるメールボックス俺は人だよなまだ

咳をしても泣いても星は人まみれ独りつてことよりも苦しい

ご健勝お祈りします 身勝手に祈られてまだ神童やれます

よく見れば人

ささやかにささやかに憎んでいます触れないで水が溢れるから
内見で訪れた街駅前に図書館があり歩幅は広く

市役所の窓口で泣く祖母に似た婦人越しの転出届け

最後まで行かなかつたケーキ屋で季節のフルーツケーキのお知らせ

思い出の小物をまとめ一括り「雑貨」の文字を側面に書き

過去形になりし本等が査定されコンテナのなか裏切りの瞳

新しい住所を教えることも無く珈琲に零すシュガースティック

「またね」より「さよなら」だった返された鍵の処分方法を調べ

内臓をすっかり無くした本棚の白き背を撫づ引越業者

痕跡を無くした部屋でカーテンはそれでも静かに床を摩すり

ただのたなか

580km

コードレス

武井窓花

ささやかにささやかに憎んでいます触れないで水が溢れるから
友達の友達の話は知らない、それより蠟燭が見つからない

冬空にパラグライダーの飛行線いつか鳥になるまでを生きるよ

カーテンを開けたり閉めたりするだけの簡単なお仕事の最中

冬の陽は夏よりすこし透明でシャラ・ラときれいな音がしている

開いたまま黒い画面のパソコンに私が映っていて かわいそう

この町は坂道がとても多いから気をつけて風を切るように

コードレスじやない掃除機で階段を吸い込みながら静かに泣いた

天災のようなゆきばのない怒り虫は澄んだ水場で育つ



その蜘蛛さわらないで 鳥さんの瞼

おれの仲良い人みんな仲良い人がおれしかいなかつたらな さくら
ライカのこと宇宙で死んでしまったから宇宙犬と呼ぶんですかじやあ社会に出て死んだら社会人っていうんですか
助からないところを見ていてくださいねきれいな蛾。きたない蛾。きれいな蛾。きたない蛾。
感謝です、家族。心の一角でずっとずっとふり続けているやわらかな雨
生きやすそうも生きづらそうも悪口になっちゃうと思う。あさい夕焼け



デザイン・編集：はるかぜ

232 深山睦美

「時差ボケ」は「自殺」を想起させるので子の名前には相応しくない意図的なオウンゴールじやない場合、自殺点とは言えなくないか？
影もあり足跡もあり過去もある自殺の絵だけ無いいらすとや
通行人を巻き添えにする飛び降りはご遠慮願います 管理人
もし二月三十二日があつたならその日は避けて産むんだろうか
復讐が成就するかを考え、しないとわかり死ぬのをやめる
自殺した有名人の一覧に×の名前を書いて消された
今後とも（自殺を試みた国家で）良き生存者たらんことを

水戸黄門 吉田岬

お銀、だけずっと変わらずテセウスの船は未だに成立しない
某国の僭主現れ印籠の代わりにかざす謎のスイッチ
ちりめんがよくわからず尋ねれば祖母もなんだか知らないという
すけべえの助さんだと耳打ちをされるたしかに原田龍二だ
子供にはアンパンマンを見せなさいわしらには水戸黄門を、とぞ
先もなく後もなくただ人生をよく知らぬまま歩道濡れゆく
善良なひとが虐げられるのは光圀公の活躍のため
水戸黄門ごっこをしてもこの場所で襲いかかってくるものは熊
印籠のかわりにあなたが持つなかで最も価値のあるものを見せて



（25パーという数字は適当だ）25パーで今日死ぬつもり

コーヒーをこぼしてしまった店員がコーヒー、自殺ですと叫んだ

現実に「もういいでしよう」の声はなく誰も戦うことをやめない

お銀、だけずっと変わらずテセウスの船は未だに成立しない

某国の僭主現れ印籠の代わりにかざす謎のスイッチ